

HEADLINE

表

1. 合格速報！「サクサク」

裏

2. 今回のがんばった生徒紹介

3. 聞いてびっくり知ってびっくりする話

編集後記

Topic1

合格速報！「サクサク」

受験とは己との闘い。闘いを終えた受験生。この大きな勝利は一瞬のもの。次のステージが待っている。

平成29年度 合格実績(29年3月13日 集計分)

東京大学 4名	一橋大学 1名	山梨大学(医・医) 3名	東京医科歯科大学 1名
北海道大学 3名	東北大学 5名	名古屋大学 1名	九州大学 1名
筑波大学 1名	信州大学 4名	埼玉大学 1名	千葉大学 3名
お茶の水女子大学 1名	東京学芸大学 1名	山梨大学 27名	静岡大学 17名
信州大学 4名	電気通信大学 3名	山梨大学 27名	(医学部医学科3名を含む)
浜松医科大学 1名	秋田大学 4名	山形大学 6名	首都大学東京 3名
奈良女子大学 1名	名古屋工業大学 2名	他多数	国公立計 169名
山梨県立大学 9名	静岡県立大学 11名	都留文科大学 8名	他多数
早稲田大学 8名	慶應義塾大学 5名	上智大学 2名	東京理科大学 13名
立教大学 3名	法政大学 23名	明治大学 31名	青山学院大学 12名
中央大学 17名	学習院大学 3名	国際基督教大学 1名	立命館大学 5名
芝浦工業大学 24名	東京薬科大学 6名	成蹊大学 8名	津田塾大学 1名
日本大学 37名	他多数	私立計 840名	

今年も国公立前期の発表が終わり、中期後期試験へとスケジュールは進んでいます(3/16作成)。
合格した人はその先の生活へ向けて、惜しくも涙をのんだ人は後期試験に向けて取り組んでいます。この合格、不合格には一つずつの“ドラマ”があります。主役は受験生本人、どのようなストーリーを思い描いてこれからの受験生活を送るか、苦しいことも多いでしょうが、とても楽しみです。1年後、2年後に向けてこの春、受験生として何かを実感してください。

◆そんなこれから受験に向かう皆さんに、英語科総責任者の内田先生からのアドバイスです。
英語は言語です！当たり前のことですね。では、言語として学ぶとはどういうことか？それは、

- ① 文章ならば、速く正確に読むことができるようになること。
- ② 会話(リスニング)ならば、会話のスピードで内容が理解できるようになること。

を目標に学習することです。スピードが大切です。日本語で考えてみるとわかります。会話のリズムがありますよね、日本語で会話をしながら、いちいち、これは倒置だ、とか謙譲語だから、などと考えずに会話は成立しています。英語でも、このレベルに近づけるように学ぶのです。そのためには、これまでどれほど言われ続けてきたかわかりませんが

- ① 英文法を固める。英文法が不安定なら、どんなに長文読解のトレーニングをしても力にはなりません。
- ② 語彙を増やす。これも、単語の意味が瞬時に思い浮かぶようにしなければ意味がありません。

つまり、語彙と文法を“速さを兼ね備えてアウトプットできるようになる”ことが“英語ができる”ということです。その成果として最も表れるのが、文章の音読、黙読の速さです。結局スピードです。このスピードを上げる具体的なトレーニング方法は、校舎の担当の先生に聞いてください。

英語の力は受験の力。英語を制すものは受験を制す。いろいろ言われますが、その理由は、受験英語ではこの力を試されることが多く、身につけてしまうと、場所を選ばずその力が発揮される科目だからです。チェックを怠らなければ、必ず力になります。がんばってください。

春休みです。生活の見直しも必要ではありませんか？睡眠について見直しましょう。

- 朝起きる時間は一定ですか？(通常、学校がある日と同じ時間に起きることが望ましい。)
- 昼寝をしていませんか？(30分以上の仮眠は、学校のある日はできませんよね？休みの日に昼寝をすると、生活のリズムが乱れます。)
- 夜更かししていませんか？(朝、きちんと起きるのであれば夜更かしは問題ありません。しかし、朝起きられないのであれば、夜更かしはしてはいけません。)

*生活のリズムは“睡眠のコントロール”から。受験は長い自分との闘いです。心身共に健康でいることは最低条件です。中長期の休みでは、生活のリズムを崩さないことはとても重要です。そのためには「早寝早起き」です！

今回は、新聞広告やチラシでは絶対に載せない、受験生の失敗談を掲載します。「〇〇をすればうまくいく」というホワイトリストと、「〇〇をしたらダメ」というブラックリストのうち、ブラックリストをご覧ください。ブラックリストに当てはまらない受験生活を送ることを心がけましょう。答えてくれたのは、とある校舎の今年の卒業生2名。両名第一志望に不合格。合格体験記には載ることのない貴重なコメントです。

後悔してもしきれない ブラック 生活編

- 携帯電話の使い方を完全に間違えた。ラインやSNSを気にしない友達で受験に成功した人が多いと思う。
- 学校から帰って、とりあえず寝て、夜中に起きて勉強する、この勉強は宿題をこなすだけで、ほとんど成果がなかった。
- ダイエット(というか断食)をして、頭が働かなかった。
- とにかくいつも眠かった。授業中居眠りをすることが多かった。

これってホワイト？多分ホワイト 生活編

- 学校の休み時間は寝てた。
- 運動をした。

江戸時代のこと、フグの毒がどこにあるかを調べるために、フグを食べて、毒に当たり苦しんでいる人に、どこを食べたかを聞いたそうです。次にフグを食べた人が毒に当たらないために。

わかっているけど・・・ ブラック 学習編

- 目標がなかった。
- 課題は提出しなければならぬので、ちょっと考えて、答えを写すだけ。成果が出るはずがないとわかっているけど、時間もなく疲れていて、やめられなかった。
- 模試の結果でよかったところしか見なかった。
- 国語は得意だと思っていたので、現代文は3年まで勉強しなかった。3年の模試で急に成績が悪くなった。
- 数学は得意だったので、他の科目の勉強を優先させていたら、数学ができなくなった。2週間くらいほったらかしただけなのに。
- 週テストを適当に前日に取り組むだけだった。結局受験のとき覚えなければならぬことだらけだった。
- 1年の終わりごろ勉強がどうでもいい、と感じるようになり、ぐれた。文理の先生も心配してくれたが、聞かなかった。この1か月間は本当にもったいないことをした。

受験生の皆さん、これ、結構効きます

- 「〇〇大合格」と自分で大きな紙に書いて、部屋に貼る。古典的だけどやる気になった。
- とにかく自習室を使う。

「後輩が同じような結果にならないように」と協力してくれた2人には本当に感謝しています。思い当たるものがたくさんあったはず。ぜひ、行動に移してください。

文理学院の本部は山梨県都留市にあります。静岡県の人には聞いたことがない地名かもしれませんが。山梨県富士吉田市、都留市、大月市などでつくられる地域を山梨県の人には郡内(ぐんない)と呼んでいます(東部富士五湖地方の方が一般的かもしれませんが)。この郡内地区の都留市で文理学院は産声を上げ、今のよう学習塾に成長してきました。

本年度の東大合格者4名のうち、3名がこの郡内地区から出ていて、その生徒が通う高校が吉田高校の理数科です。

郡内地区の人口は驚くなかたったの19万人。四方を山で囲まれ、行動範囲、生活圏も限られるこの地区で、実際に吉田高校に通うことのできる地域の人口は多く見積もっても8万人程度でしょう。その地域の40名定員の吉田高校理数科から、なんと9名の東大合格者が出ています。富士・富士宮の人口がおよそ38万人、そのトップ校である富士高からの東大合格者は6名。もちろん東大受験がすべてのはずがありません。しかし、この人口の少ない田舎の町から、どうしてこれほどの東大合格者が出るのか、不思議だとは思いませんか？

今回の物語はそんなところからのスタートです。ある文理の先生(静岡県富士地区の責任ある立場のK先生)は「寒い土地の人は、温かくするために努力するから、根性が違うのかな？」とか「遊びがないからかな？」とか言いたい放題です。「(〇〇Q)ハイランドだってあるし、富士五湖や忍野八海の実しさたら・・・。)」

先ほども触れたとおり、吉田高校の理数科は定員40名、3年間クラス替えなしの単一クラスです。その吉田高校理数科の合格者は高校入学、というか合格と同時に理数科のプログラムに従って行動します。地域のNo.1の高校であるプライドは、全国のNo.1を意識する集団に成長します。最初は東大なんて、と思っているけど、努力しながら、もしかしたら自分にもチャレンジできるのでは？となり、東大に行きたい、と変化していくのです。全国的に理系の最上位には医学部医学科という選択肢も出てくるケースが近年では多いのですが、その割合は吉田高校の理数科では少ないように感じます。

吉田高校理数科の指導は地域には知れ渡っており、とても厳しいことが要求されることを受験生は承知しています。それでも自分自身を鍛えながら、吉田高校理数科を目指す生徒がたくさんいます。文理学院は生徒、保護者のニーズに合わせてできる限りのバックアップを全力ですることを指導の第一に据えています。この指導の原点は、この吉田高校理数科の受験が大きく関係しています。受験生自身が“高校受験でひっくり返そう。やればできる。”と自分を信じて、必死に取り組む。その思いに応えるために、時間を問わず徹底的に指導する。そんな高校受験の最高峰に、吉田高校理数科があったからこそ、文理学院自体も鍛えられ、生徒と共に歩んでくることができました。徹底的に鍛え上げる、手間暇を惜しまない、それは生徒を合格させるためには必要な指導だったのです。

全力で目指す受験に、全力で応える。その生徒の集団が成長して、日本の最高学府である東京大学を目指し、合格する。この地域と一体になった指導が文理学院の原点です。裏を返すと、この徹底した指導を受け入れてくれる郡内という地域があったからこそ、文理学院は成長したともいえます。文理学院では、1995年以降21年間、その吉田高校理数科の合格実績No.1を守り抜いています。どうせ、高校で厳しく指導を受けるのだから、受験でも厳しく自分を鍛えたい、と言って文理学院を選んでくれる生徒、保護者も少なくありません。この場を借りて、お礼を申し上げます。

そして、この指導を文理学院どの校舎でも、今後も続けることをお約束すると共に、生徒の皆さんには、自分の目標達成のために、その価値ある若さを存分に使ってもらえるように指導します。

高校生の皆さんにお願いがあります。目標と熱意をもって受験に臨んでください。自分自身で限界を決めず、目標達成に向けて全力で取り組みましょう。不可能なんてことはない、あきらめるなんてまだ早い、そう言いながら大学受験に挑んでほしいと思います。たくさんの先輩たちがそうしてきたように、自分のために。それは、東大受験に限った話ではないからです。

このお話の主人公は、努力を惜しまない無鉄砲な若者で、舞台は山梨の田舎町の小さな塾。引継ぎ、語り継がれ山梨から静岡へ、そんなお話でした。何年後かに語られるエピソードは皆さんのなのでしょう。

■ブログには各校舎の情報満載！スケジュール、講師のつぶやき、自分勝手なメッセージ・・・

校舎ブログをホームページから、チェックしてください！

■第一志望合格のために、スタッフ一同全力で生徒を応援します。悩みは一人で抱え込まず、いつでも、何でも相談してください(生徒の皆さんも、保護者様も)。

新年度スタートは 4月5日(水)です。

*4/3(月)は社内行事のため休校です。自習室を含め完全休校です。
月間スケジュールにて新年度時間割等、改めてご確認ください。

編集後記

生徒全員が第一志望に合格するわけではない。今回、記事を集めながら一番心苦しかったのは、Topic 2。私たちに突き付けられた課題だと思いました。

でも、協力してくれた生徒はその何十倍、何百倍の苦しさを、悔しさを味わいました。笑顔で話してくれたことも、その笑顔も忘れません。その先にある道を一步ずつ進んでほしいと思います。

将来、どこかで笑い話にできるように成功を祈っています。